

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

| | | | |
|------|-----------------------|------|------------|
| 整理番号 | 66 | 大学等名 | 公立千歳科学技術大学 |
| テーマ | テーマV 卒業時における質保証の取組の強化 | | |

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、学長主導の下、社会連携ワーキンググループを中心とした議論により再設定されたディプロマ・ポリシーが各科目に落とし込まれた結果、ディプロマ・ポリシーの教員全体による共有や、教員間のFD活動の活性化にもつながっていることは高く評価できる。また、ディプロマ・ポリシーは高大接続システムでの学力観を意識したコンピテンシーベースに改訂されており、これに沿って構築されたCIST質保証マップにより、カリキュラムの体系化と再構築が図られている。さらに、シラバスにおいて、成績評価基準・評価方法・学修成果評価項目の評価割合と評価方法を見える化するとともに、システム開発により、学修成果項目に基づく学修成果を可視化することで、企業側に学生の成長履歴を提示できるディプロマ・サプリメントの開発を行っていることも十分評価できる。CIST質保証マップは全教員が参加して開発に取り組んだことから、教員は自分の担当以外の授業内容についてシラバス共有などを通じて把握できたことは、今後教員の質向上に対しての副次的な効果が期待できるものと評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、シラバスにおいて可視化された学修成果評価項目では、成績以外の視点で7つの汎用力についても客観的指標としていることに加え、これらの指標はディプロマ・サプリメントにおいても活用されている。これらの取組の結果として、必須指標のうち「学生の成績評価[GPA平均]」及び「学生の授業外学修時間」については目標値未達であるものの、「進路決定の割合」「事業計画に参画する教員の割合」「卒業生追跡調査の実施率」及び、任意指標のうち「CIST質保証マップの適用率」については目標値を達成したことは評価できる。今後とも、未達成であった目標値の実現を図りながら、教育の質保証を実践していくことが期待される。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長が議長である「教育改革推進委員会」において本事業全体の企画・立案・調整及び予算配分・執行の承認、「AP推進プロジェクト」において運営進捗・調整、「外部評価委員会」において評価を行うという明確な実施体制が構築されている。また、事業自体の見える化が進み、ADDIEモデル（分析、設計、開発、実施、評価）が実施されていることに加え、学外連携についても定期的な外部意見を取り入れる予定とのことから、補助期間終了後も改善が継続する取組となっており、高く評価できる。

事業成果の普及については、他選定校との交流を通じた事例共有などは強化されており、ある程度評価できる。補助期間終了後は、他大学等の参考となるよう、引き続き積極的な発信に努めることが期待される。